

視 察 報 告 書

令和8年2月2日

伊勢市議会議長 様

会派名 未来創成
議員名 中村 栄治

視察を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和8年1月23日（金）10時～16時
- 2 場 所 リファレンス西新宿大京ビル
東京都新宿区西新宿7丁目21-3
- 3 内 容 ・予算議会の役割と流れを理解する・議員活動全体と予算議会の関わり方・予算審議の前に準備すべきこと・質疑のための着眼点・質疑に必要な資料と情報・総合計画や総合戦力を根拠に質疑を構成する・予算質疑事例紹介

4 所 感

新人議員として、自治体予算の仕組みと効果的な政策提案について学ぶ実践研修に参加しました。予算審議は、市民の皆様からお預かりした税金が適正に使われているかをチェックする議会の最も重要な役割の一つです。今回の学びを整理し、今後の活動への決意を報告します。

1. 予算審議は「点」ではなく「年間サイクル」で

3月議会で予算案が提案される際、行政内部での検討は既に最終段階にあります。そのため、3月の議会で意見を考えるだけでなく、議会の決算審査の時期や12月議会などの初期段階から次年度に向けた要求を伝え続ける「先手」の進め方も必要であることを学びました。

2. 他市の事例や国の動向を「物差し」にする

伊勢市の予算を客観的に評価するためには、外部の情報と比較する「相対化」の視点が重要です。

・専門誌の活用

『ガバナンス』などの専門メディアから他市の先進事例を収集し、「他市ではこう解決している」という根拠を持って提案に臨みます。

・国の予算との協調

自治体の事業は、文部科学省や厚生労働省などの国の個別要求と協調していることが多くあります。国の補助金の動向を掴むことで、市単独では難しい事業の資金を確保しながら進める提案が可能になります。

3. 数字の逆を見抜く「4つの分析視点」

予算書や実績報告書を読む際、以下の4つの視点を持つことで、改善すべき課題を明確に特定できます。

・目標と実績の乖離

收受

8.2.-2

伊勢市議会

過去の目標が達成されていない（例：目標100人に対して実績80人）にもかかわらず、原因分析や改善策がないまま同じ予算が組まれていないか確認します。

・実績の追加と効率性

対象者が半分に減っているのに予算額が変わっていないなど、費用対効果が悪化している事業かどうかをチェックします。

・外部トレンドとの比較

例えばふるさと納税の伸び率が全国平均（約1.1倍）に比べて自市が停滞しているなど、全国的な傾向と比較して自市の強み・弱みを分析します。

・手段の判断性

目標を達成するために、現在の事業内容が本当に最適な手段であるかを考え直すことも重要なポイントである。

4. 総合計画に基づく実効性のある提案

市の最上位計画である「総合計画」や「総合戦略」には、人口、雇用、子育て満足度などの数値目標が検討されています。これらの目標値と最新の実績を照らし合わせ、「どうすれば目標に到達できるのか」を論理的に追求します。境界数字を確認するだけでなく、次年度の改善に繋がる具体的な約束（確認ポイント）を議事録に残していくことで、現実的な議会活動を積み重ねてまいります。

今回の研修で得た「客観的なデータに基づく分析力」を武器に、限られた予算を最大限かつ効果的に活用することにより、市民の皆様の生活がより豊かになって行く一歩を踏み出して頑張ってまいります。

研修報告書

令和8年2月2日

伊勢市議会議長 様

会派名 未来創成
議員名 山木 英樹

研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和8年1月23日(金) 10時～16時
- 2 場 所 リファレンス西新宿大京ビル
東京都新宿区西新宿7丁目-21-3
- 3 研修名 予算質疑特別研修
- 4 内 容 **1. 予算議会とは何か？基礎から学ぶ第一歩**
 - ・予算とは何か？ 予算議会の役割と流れを理解する
 - ・何の為に議会はあるのか？ 行政と議会の関係、職員と議会の関係
 - ・議員活動全体と予算議会の関わり方
 - ・予算審議の**前**に準備すべきこと
 - ・初心者が**躓**がずに、『数字だけ質問』を卒業する
 - ・質疑の為の着眼点**2. 効果的な質疑のための準備と視点**
 - ・質疑に必要な資料と情報
 - ・総合計画や総合戦略を根拠に質疑を構成する
 - ・予算質疑の事例紹介

5 所 感

議会における予算に対する質疑や一般質問の具体的な進め方について、これまで明確なイメージを持つことができていませんでした。しかし、今回の研修セミナーを通して、市職員の方々との関係性の築き方や、行政に対する視点、分析の方法について理解を深めることができました。

特に、市職員の方々との関係性については、セミナーの中で「北風と太陽のアプローチ」という考え方をご説明いただき、大変印象に残りました。我々議員は公約を掲げて活動していますが、その中には理想論的な側面も少なからずあります。一方で、市職員の方々は現実的な制約や状況を十分に理解された立場にあります。

收受

8.2.-2

伊勢市議会

しかしながら、伊勢市をより良くしていきたいという思いにおいては、双方が同じ方向を向いていることは間違いありません。だからこそ、対立するのではなく、共に考え、現実の状況をどのように打開していくのかという視点を持って、質疑や質問を行っていくことの重要性を強く実感しました。

研修報告書

令和8年2月4日

伊勢市議会議長 様

会派名 未来創成
議員名 杉村 剛

研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和8年1月23日(金)10時～16時
- 2 場 所 東京都新宿区西新宿7-21-3 リファレンス西新宿大京ビル
- 3 研修名 予算質疑特別研修
- 4 内 容
 - 1 予算議会とは何か？基礎から学ぶ第一歩
 - ・予算案とは何か？
 - ・予算議会の役割と流れを理解する
 - ・何の為に議会はあるのか？行政と議会の関係、職員と議会の関係
 - ・議員活動と予算議会の関わり方
 - ・予算審議の前に準備すべきこと
 - ・初心者が躓かずに、「数字だけ質問」を卒業する
 - ・質疑の為の着眼点
 - 2 効果的な質疑のための準備と視点
 - ・質疑に必要な資料と情報
 - ・総合計画や総合戦略を根拠に質疑を構成する
 - ・予算質疑の事例紹介

5 所感

初めて関わる議会の中で、そもそも予算とは何かという基礎からはじまり、その役割や流れという市議会議員として学ぶべき第一歩をまさにわかりやすく聞けたと思う。

市職員との関わり方も、双方の立場からのものの見方で質問を考えることも必要で、結果として市政をより良い方向にお互いが進めていける。その中で自分の公約や目標を達成するようになればよいということだと思う。

予算質疑には総合計画や総合戦略の資料から自分の必要な部分に目をつけて質問に繋げていくことを学んだので、実際に自分も資料の把握を的確にできるようにしていきたい。



研修報告書

令和8年2月12日

伊勢市議会議長 様

会派名 「未来創成」
議員名 池田 覚

研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和8年2月7日(土)10時～16時
- 2 場 所 東京都新宿区西新宿7丁目21-3
リファレンス西新宿大京ビル
- 3 研 修 名 予算質疑特別研修 基礎から実践まで4コマ集中講義
(1)生成AIを活用した予算審議について基本編
(2)生成AIを活用した予算審議について実践編
- 4 内 容
 - (1)生成AIを活用した予算審議について基本編
 - ・生成AIの基本について
 - ・議員活動における生成AIの使い方
 - ・議員質疑における生成AIの活用事例
 - ・AIを活用し、予算審議に必要な情報を取得する方法
 - (2)生成AIを活用した予算審議について実践編
 - ・財務資料の~~読み~~^{見方}
 - ・AIを活用した財務分析
 - ・事業評価の見方
 - ・AIを活用した事業分析
 - ・質疑の後に必ずやるべきフォローアップ

收受
8.2.12
伊勢市議会

5 所感

1. 研修への参加にあたって

議員として初めて迎える予算審議は、私にとって非常に大きな挑戦です。膨大な予算書や資料を前に、「どこから手をつければいいのか」「市民の皆様の声をどう予算に反映させればいいのか」と不安を感じていた中で、本研修に参加いたしました。最新の「生成 AI」という道具をどう使い、予算の仕組みをどう理解すべきか、基礎から実践までを学んだ充実した内容となりました。

2. 研修で学んだこと

(1) 生成 AI を活用した予算審議について: 基本編

まずは、生成 AI (ChatGPT など) を「便利なパートナー」として使いこなすための基礎を学びました。

- 生成 AI は「聞き上手な秘書」: AI はただの検索エンジンではなく、こちらの対話に応じて考えを整理してくれる存在です。新人議員にとって心強い「政策秘書」のような役割を果たしてくれることが分かりました。
- 議員活動での使い方: 行政の難しい言葉で書かれた資料を「中学生にも分かるように説明して」と頼んだり、市民アンケートの膨大な意見を「何に困っている人が多いか」と分類させたりする方法を教わりました。
- 情報の集め方: 予算審議では、他の自治体がどのような取り組みをしているかを知ることが重要です。AI を活用して、全国の成功事例や工夫を素早くリサーチするコツを学びました。

(2) 生成 AI を活用した予算審議について: 実践編

次に、実際の数字や事業をどう分析するか、より具体的なテクニックを学びました。

- 数字の「変化」に注目する: 財務資料を見る際は、金額の大きさだけでなく「去年と比べてどこが急に増えたか」を見ることが大切だと教わりました。AI に数字を読み込ませることで、見落としがちな変化をパッと見つける方法を体験しました。
- 事業の「効果」を確かめる: 「お金を使った結果、本当に市民の生活が良くなったのか」を客観的にチェックする方法を学びました。事業評価シートを AI と一緒に読み解き、「もっと効率的なやり方はないか」と問いかける視点を得ることができました。
- 終わった後の「振り返り」: 議場で質問をして終わりにするのではなく、当局の答えを AI で整理し、「次の会議で何を追いかけるべきか」を記録しておく重要性を強く感じました。この積み重ねが、市民への誠実な報告に繋がると確信しました。

3. 研修を通じて感じたこと(所感)

「知識の武器を持つことの大切さ」

行政の専門家である職員の方々と議論をするためには、私自身もしっかりとした根拠(エビデンス)を持つ必要があります。AIは、そのための強力なサポーターになってくれると感じました。複雑な資料を読み解く時間をAIに手伝ってもらうことで、その分、私は市民の皆様の現場に足を運び、生の声を聴くための「議員にしかできない時間」を増やすことができるのだと希望を持ちました。

「正しく使う」という責任

AIは大変便利ですが、時には間違った答えを出すこともあるという注意点も学びました。AIがした答えをそのまま信じるのではなく、最後は自分の目で確認し、自分の言葉で語ることが、議員としての責任であると強く心に刻みました。テクノロジーを賢く使いこなしつつ、根底には常に「市民のために」という温かい視点を持って活動していきたいと感じました。

4. 今後の決意と前向きな取り組み

今回の研修を通して、新しい知識を得ることの楽しさと、それが日々の議員活動に直結する手応えを感じることができました。新人議員である私にとって、学ぶべきことはまだまだ山積みです。しかし、今回のような研修で得た「視点」や「道具」があれば、自信を持って議場に立ち、市民の皆様の声を届けることができると確信しています。

私は今後も、このような新しい技術や専門知識を学ぶ研修には、積極的に、そしてどん欲にしていきたいと考えています。常に自分をアップデートし続け、市民の皆様から「選んでよかった」と思っただけのよう、一步ずつ成長していく決意です。今回学んだことを、さっそく次の予算委員会での準備に活かしてまいります。

研 修 報 告 書

令和8年1月29日

伊勢市議会議長 様

会派名 未来創成
議員名 谷口 久美

研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和8年1月28日(水) 10時～16時
- 2 場 所 リファレンス西新宿大京ビル
(東京都新宿区西新宿7丁目21-3)
- 3 研 修 名 元財政課長から学ぶ令和8年度予算審議集中講座
鋭く突く！議員力を示す質問術
予算審議を“武器”に変える
- 4 内 容
 - 1 自治体財政の現状と課題
 - (1) 財政環境の変化
少子高齢化・人口減少に伴う税収減により、多くの自治体が財源確保に課題を抱えている。
 - (2) 財政理解の不足
自治体内部においても財政の本質理解が十分でなく、「財政が厳しい」理由が共有されていない。
 - (3) 財政健全化の方向性
財政課題の解決には、組織内外の「対話」を通じた全体最適の追求が不可欠である。
 - 2 予算審査の意義
 - (1) 行政運営への理解促進
議会での質疑は、市民の行政リテラシー向上に寄与し、行政運営への納得性

收受

8.1.29

伊勢市議会

を高める役割を持つ。

(2) 議員の役割

議員は市民の代表として行政と市民をつなぐ存在であり、議会は市民同士の対話を代行する場として機能する。

3 議員力を示す質問術

(1) 事前準備の重要性

配布資料の確認、事前説明の活用、勉強会の実施など、質疑の質を高めるための準備が求められる。

(2) 予算審査における三つの視点

1) Action (事業内容の磨き上げ)

ロジックモデルの妥当性、成果指標、評価時期の確認。

2) Vision (将来像の実現)

総合計画・政策推進プランとの整合性、優先順位付け。

3) Flame (枠組みの堅持)

中期財政見通し、財政健全化指標、将来負担の把握。

4 対話の重要性

(1) 対話の役割

対話は相互理解を生み、政策の実効性を高める基盤であり、“社会のインフラ”として機能する。

(2) 対話不足が生む課題

縦割り構造や意思疎通不足により、政策連携が阻害される。

議員同士、議員と当局の対話の質が政策形成に直結する。

5 自治体財政に関する基礎知識

(1) 予算が余ることの意味

予算の不用額は必ずしも問題ではなく、財政構造の理解が必要である。

(2) 会計年度独立の原則

当該年度の歳入で歳出を賄うという基本原則が財政運営の基礎となる。

(3) 基金の重要性

財政調整基金は年度間調整の最終的な財源であり、残高の推移は財政健全性の指標となる。

(4) 地方債の考え方

社会資本整備以外での借入は将来世代への負担となるため慎重な判断が求められる。

(5) 地方交付税の仕組みと課題

財源保障の仕組みである一方、制度依存を生みやすい側面がある。

(6) ふるさと納税の位置付け

臨時財源であり、恒常的な財源として扱うべきではない

5 所 感

研修を通じて、自治体財政は単なる数字の管理ではなく、「将来のまちの姿をどう描き、どう実現するか」ということは、予算編成にとって重要で、総合計画などの価値判断の積み重ねであり、将来像が大切なことを改めて実感しました。

議会を「市民同士の対話を代行する場」と捉える視点にはとても印象的で、単に議員が質問をし、それに対する答弁のためだけでなく、市民の理解を深める役割を持つことを再認識しました。そして、「対話は社会のインフラ」という言葉に、「対話」の重要性を再認識し、これからも、「対話」を大切にしっかりとやっていこうと思います。

また、「What is it for me?」という当事者意識の視点は、政策を実効性あるものにするために欠かせない考え方であると感じました。

対話の場づくりや中期的な財政議論など、これからやっていくうえでのポイントなど学んだことを議会をはじめ市民、職員、議員とのコミュニケーションや政策審査に活かし、より良いまちづくりにつなげていきたいと思っています。

